



1 2月附幼だより

令和6年11月29日

幼稚園の経験が小学校からの教育とつながる

附属旭川幼稚園園長 佐藤 公文

今年の冬はいつもの冬よりも根雪になるのが遅いようです。週間天気予報を見ると、12月に入ると雪が積もりそうです。そろそろ、園児が雪だるまを作ったり、築山で山滑りをしたり、雪合戦をしたり…雪あそびができるくらい積雪になってほしいものです。

さて、保護者の皆様、発表会いかがでしたか？お子さんの成長を感じていただけましたか？短い時間でしたが楽しんでいただけましたか？どのクラスも担任が「どんな事やってみたい？」「こんなことはどうかな？」と提案し、園児からの「こんなことやりたい」「お父さんやお母さんにこんな技を見せたい」などの意見を出してもらい、みんなで話し合いをして出し物を決めました。実際にやってみて、改めて話し合うということを積み重ねて、発表会当日の内容になりました。どのクラスも、発表会当日の演技が、一人一人のいい姿が見えて、クラスとしてもまとまりを感じました。園児自身も、担任も達成感や満足感を感じた一日になったと思います。

さて、発表会の園長挨拶でも話したことですが、研修会で文部科学省の話聞く機会がありました。将来、社会の中心になって活躍する子どもの就学前の教育について、幼児教育施設は「一人一人の個性や発想を生かした遊びができる」「達成感や満足感を感じることができる」「友達と遊びを通して関わること、協力すること、感動の共有ができる」など、幼児自身が主体的に生活や遊びに取り組めることを求めているようでした。それが、質の高い幼児教育と言えるということになります。そして、幼児期に育ったことをベースにして小学校以降の教育が進められるという話を聞きました。近年、「幼小の接続が大事」と言われ、幼小が協力しての様々な取り組みが始まっています。これまでの学校教育はどちらかというと覚えたり、記憶したりすることが中心の教育といわれてきました。しかし、これからは一人一人の興味・関心を大切にされた教育の在り方が重視されるようです。今回の発表会の中で園児が楽しかったり、達成感を感じたり、少し苦労したり…、それらすべてが幼児期以降の成長の糧となります。

本格的な冬になりますが寒さや雪や氷を活用して「こんなことできたよ！」と園児が生き生きと輝く幼稚園生活を送れるように、私たちは遊びのバックアップをしていきたいと考えています。

子どもの冬の遊びはゴムやウレタンの長ぐつがオススメ

来週は積雪になるでしょうか。毎冬、感じているのですが、子どもの雪遊びには昔ながらのゴム長靴（又はウレタン製）が良いです。長ぐつの方がスノーカバーを自分でかけやすいものです。気温が下がった時は厚手の靴下をはくと暖かいです。長ぐつは水がしみません。これから購入を考えている方は検討してみてください。

